

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和2年8月号

産地パワーアップ事業によるミニトマトハウスの整備

株式会社オスミックアグリ千葉
ファームサポート事業部

2020年4月、千葉市平川町に産地パワーアップ事業を活用したミニトマトハウスが建てられました。同町では株式会社オスミックアグリ千葉が3年前よりミニトマト栽培を行っていますが、高糖度トマトを販売する株式会社OSMICの基幹農場として既存ハウス6棟に加え、今回の産地パワーアップ事業により1棟/20アールの鉄骨ハウスが6棟建てられ計12棟、合計で24000平米の隔離栽培トマトハウスとなりました。これらのハウスから出荷されるミニトマトは首都圏のスーパーや大手通信販売など全国へと出荷されます。



産地パワーアップ事業を活用した
1棟/20アールの鉄骨ハウス

OSMIC(オスミック)トマトは、「フルーツに進化したミニトマト」を1年を通して生産を行っていますが、OSMICのミニトマトを食べていただいたお客様からは「こんなに美味しいトマトは初めて!」とうれしい感想を多数いただいております。

また、2019年には野菜ソムリエサミットのトマトコンテストで、40エントリーの高糖度トマトのなかから、最高評価のグランプリをいただき、野菜や料理の専門家の方々からもその美味しさを認められました。

OSMICのミニトマトが美味しい理由は、ただの高糖度トマトではなく「有機培土」にこだわったワンアンドオンリーの栽培方法を行っているからです。オスミックソイルと呼ばれる弊社オリジナルの培土は、有益な微生物を豊富に含んだ有機培土となり、この培土が、ただ糖度が高いだけでなく印象的で味わい深いコクのあるミニトマトを産み出しています。

有機培土を使った栽培は繊細な水分コントロールが不可欠で、決して簡単ではありませんが、栽培に苦勞するぶん、水耕栽培や溶液栽培では絶対に出不ない深い味わいのあるミニトマトが作れていると自負しております。

また、最新の環境制御技術も積極的に取り入れ、CO2施用とLED補光で高糖度を安定させています。さらに、冷却ラジエーターと大型のファンでハウス内に冷気を流す「パッドファン」は夏期でも高糖度トマトを生産できる秘密のひとつです。

今回の生産拠点拡大により、周辺地域から老若男女の栽培・選果スタッフを数十名規模で増員いたしました。オスミックトマトの生産を支えてくださる地域のパートさん方とともに、これからも、多くのお客様に喜んでいただける美味しいフルーツミニトマトの生産に励んでいきたいと存じます。



栽培・選果スタッフ作業風景

「地域ブランド化にチャレンジして 千葉県産の名物をデビューさせよう！」

千葉県農林水産部流通販売課
販売・輸出促進室

農産物の地域ブランド化は、地域の自然条件や歴史等に起因する「地域性」を付加価値につなげ、農林水産業の競争力強化や地域の活性化につなげる取組として全国で進められています。県では、一貫したコンセプトで生産から販売まで取り組み、長期的な視点に立った事業計画を策定する事業者の方々を支援するため「千葉県地域ブランド化推進事業」を実施しています。

1 事業紹介

本事業における「地域ブランド」とは、商品やサービスの価値だけでなく、地域とのつながりがあることを意味します。

地域ブランド化の成功は、地域の特徴の発掘、生産体制の整備、商品化、品質や名称の管理、戦略的な販売などの一連のプロセスを実行していくことが重要です。

本事業では、そのようなプロセスに取り組むことを前提とした、中長期的な計画を策定し、地域ブランド化を目指す事業者の方々を募集しています。単なるロゴや名称を決めるのではなく、付加価値を創造し、他産地との差別化による有利販売や認知度向上を図るための継続的かつ戦略的な取組を支援します。

1. 補助対象者

- (1) 農業協同組合、森林組合及び農業協同組合連合会
- (2) 農業法人（農業組合法人等）、森林施業事業体
- (3) 生産者3戸以上を含む団体であって、運営に関する規約及び独立した予算運営により主体的活動実績がある団体
- (4) 市町村（政令指定都市を除く）
- (5) 生産者3戸以上と連携し、地域の産物の振興を図ってきた実績のある団体等として千葉県知事が認めた者

2. 対象事業

製品の現状分析をした上でプロジェクト計画を策定し、その達成に向けた取組を支援します。

- (1) ブランド戦略策定（専門家招へい等）
- (2) ブランド確立（成分分析、商標権取得等）
- (3) 新商品開発（加工品・レシピ開発等）
- (4) 情報発信・販売促進（商談会出展等）

3. 助成の内容

補助率：事業経費の2分の1以内

4. 2次募集

令和2年度については、補助金配分予定額が満額に達していないことから、8月頃に追加募集を実施します。詳しくは、お問合せください。

5. 問合せ先

最寄りの各農業事務所 企画振興課
もしくは農林水産部流通販売課 販売・輸出促進室
TEL 043-223-3085

2 優良事例紹介

●香取市農産物販売促進協議会
観光資源を有する香取市が主体となり、農業者と食品業者とのマッチングの場の設定、香取市内で農産物の生産から加工まで行う仕組みづくり、市内における優れた製品のHPでの紹介を行いました。こうした動きは、香取市内外での飲食店における香取の食材の利用拡大につながりました。

●株式会社芝山農園
香取地域の特産品の1つである、さつまいもの新たな食べ方を提案するための新商品開発や、自社ブランド力のさらなる向上のためのマスコット等デザイン作成、HP・ECサイトの改良等を連動して事業に取り組みました。その結果、知名度が向上し、視察・講演会・取材申出の増加や、2020 さつまいもの博にて自慢の6次産業化ブランドである熟成芋「寝た芋」の準グランプリ獲得につながり、加工品の売上が増加しました。



食材フェアチラシ



芋チャイラテ



芋しるこ

野菜ニュース



キュウリの土耕・培地耕交互栽培

—土耕と養液栽培のいいとこどりで安定多収を実現—

千葉県農林総合研究センター 野菜研究室
主任上席研究員 矢内 浩二

キュウリの周年栽培において、秋～春期はかん水同時施肥による土耕を行い、夏期のみヤシ殻袋培地耕を行う栽培法は、土耕のみを連続して行う栽培法よりネコブセンチュウ被害発生リスクが低く、収穫期間も延長できることで収量が増加します。

1 はじめに

キュウリ産地では、長年の連作によって、ネコブセンチュウなど土壌病害虫が多発しており、その対策として、毎作の初めに土壌消毒を実施しているものの、被害がなかなか減らせないのが現状です。そこで、根部病害虫等の発生リスクを低減し、低コストで規模拡大を目指す生産者が取り組みやすい新しいキュウリの栽培システムとして、土耕と簡易な培地耕を組み合わせる土耕・培地耕交互栽培を開発しました。

2 土耕・培地耕交互栽培とは (図1)

土耕・培地耕交互栽培は、秋～春期のキュウリ栽培に利用した土耕の畝に、ヤシ殻袋培地(ココバッグ、トヨタネ(株))を並べて、夏期のみ簡易な培地耕を行う栽培法です。同じ畝で土耕と培地耕を交互に繰り返すを行い、土壌消毒の回数を削減することができるので、収穫期間を延長することができます(図2)。

夏期は土壌中に根が伸びないため、土壌中のネコブセンチュウ2令幼虫数は、秋～春期作前までには

1/10以下に低下します。また、畝に掛け流しされる排液中の硝酸態窒素量は後作の土耕栽培で利用されます。硝酸態窒素量は1作合計で9g/m²以下なので、土耕キュウリの施肥量には大きな影響はありません。

ヤシ殻袋培地は、3年程度使用することが可能で、使用後は、施設内土壌にすき込むことによって容易に処分できます。

3 ネコブセンチュウ防除の必要性

作付け前の深さ0～20cm及び20～40cmのネコブセンチュウ2期幼虫密度と収量の関係を調査したところ、深さ20～40cmの線虫密度が高いほど総収量が減少することが確認されました(データ略)。土耕・培地耕交互栽培をしたとしても、秋～春期作終了時のネコブセンチュウ密度あるいは根の状態を確認し、深さ20～40cmのネコブセンチュウ密度が5頭/20g生土以上の状態であれば、土壌消毒を行い、ネコブセンチュウ密度を低下させる必要があります。

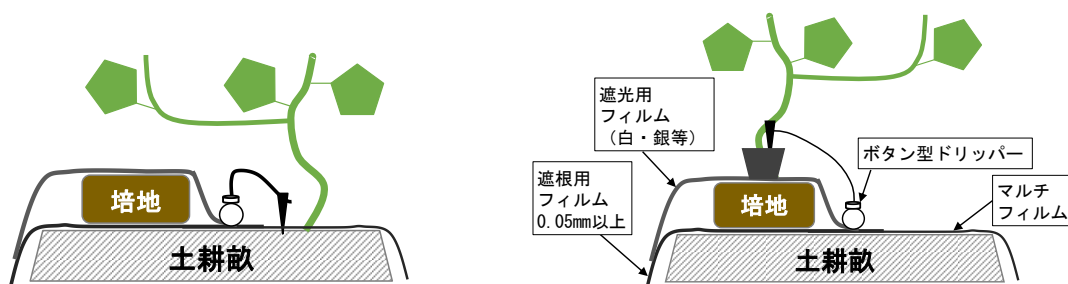


図1 土耕・培地耕交互栽培の模式図 (左：秋～春期土耕 右：夏期ヤシ殻培地耕)

栽培方式	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
周年土耕	消毒等		慣行(促成栽培)						消毒等	慣行(抑制栽培)		消毒等
土耕・培地耕交互栽培 1年目	消毒等		かん水同時施肥法(促成栽培)						培地耕(抑制栽培)			
2年目	かん水同時施肥法(促成栽培)						培地耕(抑制栽培)					
3年目	かん水同時施肥法(促成栽培)						培地耕(抑制栽培)					

図2 土耕・培地耕交互栽培法の栽培暦



土壌消毒と緑肥を組み合わせたネギのネコブセンチュウ対策

千葉県農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所
東総野菜研究室 室長 中村 耕士

ネギでは、夏季にネコブセンチュウによると思われる連作障害が発生して問題となっています。土壌消毒でも防除可能ですがコストと労力がかかるため、その回数を減らす取組が必要です。そこで、土壌消毒と緑肥（対抗植物）を組み合わせたネコブセンチュウ防除方法について明らかにしました。

1 はじめに

ネギでは、夏季に茎葉部が湾曲するおどり症状が発生し、収量が低下する原因の一つとして問題となっています。おどり症状発生株にネコブセンチュウ（以下、線虫と表記）の寄生が確認されたことから、線虫の被害であると考えられました。線虫の防除にはD-D剤を用いた土壌消毒や、緑肥であるギニアグラスやカラシナなどの栽培が行われています。そこで、土壌消毒と緑肥を組み合わせた線虫の防除方法について平成27～30年の4年間検討しましたので、その結果を紹介いたします。

2 土壌消毒と緑肥の組合せ体系

千葉県農林総合研究センター内の線虫汚染ほ場を平成27年4月にD-D剤で土壌消毒した後、ネギ連作区、夏秋まき緑肥区（29年1作）、春まき緑肥区（ネギ収穫後の間作）+D-D区の3区で平成30年度まで栽培し、線虫の寄生程度や収量を調査しました。（緑肥の種類は図を参照）

3 緑肥による被害軽減効果

平成28年及び平成29年のネギの収量は、試験区の差は小さくなりました。また、ネギの間作にエンバクを栽培した春まき緑肥区ではネギ3作後には連作区と同等の線虫密度となったため、30年度の栽培前にD-Dによる土壌消毒を実施しました。

平成30年では、ネギ連作区で夏季におどり症状が発生し（写真1）、収量は2.4t/10aと少なくなりました。線虫の寄生に加えて、病害が疑われる茎盤部の褐変も認められたことから、線虫と土壌病害が複合的に関与し収量が低下したと推測されます。これに対し、夏秋まき緑肥区では、生育期間中の線虫

密度や収穫時の茎盤部褐変度が低く、収量も4.3t/10aとD-D土壌消毒した区の4.4t/10aと同等でした（表、写真2）。このことから、ネギを1年休作し夏秋まき緑肥を栽培することで、土壌消毒と同等の収量が期待できます。

表 生育期間中の線虫密度（平成30年9月26日）と収穫時の根こぶ指数、茎盤部褐変度及び総収量（平成30年11月26日）

試験区	線虫密度 (頭/生土 20g)	根こぶ 指数	茎盤部 褐変度	総収量 (t/10a)
ネギ連作	215	47	56	2.4
夏秋まき緑肥	76	49	4	4.3
春まき緑肥+D-D	9	26	1	4.4

注1) 根こぶ指数と茎盤部褐変度はそれぞれ0～100の範囲で大きい値ほど程度が高いことを示す



写真1 ネギ連作区で発生したおどり症状（平成30年9月4日）



写真2 夏秋まき緑肥区（左）ネギ連作区（右）（平成30年11月8日）

4 おわりに

本試験結果から、土壌消毒後の線虫密度は連作によって高まるため、4年に一度の土壌消毒が必要と考えられます。土壌消毒と緑肥栽培を組み合わせ、病害虫を低減しつつ、土づくりをする取組が広がることが望まれます。

図 試験した土壌消毒と緑肥の組合せ体系

試験区	平成27年度				平成28年度				平成29年度				平成30年度			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
ネギ連作	土 壌 消 毒	ネギ			ネギ	ネギ			ネギ				ネギ			
夏秋まき緑肥		ネギ				ネギ			ギニアグラス →カラシナ				ネギ			
春まき緑肥+D-D		ネギ				ネギ			ネギ				土 壌 消 毒			

注1) 土壌消毒はD-D剤を用い20L/10a処理した

2) ネギ（品種名：龍ひかり2号）、夏まき緑肥（ギニアグラス、品種名：ソイルクリーン）、秋まき緑肥（カラシナ、品種名：辛神）、春まき緑肥（エンバク、品種名：スナイパー）を用いた

頑張る産地



東金市の丘山プラム部会の活動

～産地の活性化に向けて～

山武農業事務所 改良普及課
普及指導員 上野 満

東金市の丘山プラム部会は、県内で唯一のプラム生産部会です。先進産地の視察等により栽培技術の向上に努めてきました。また販売促進のため、プラムのおいしさと、プラムが東金市の特産物であることをPRする活動に力を入れています。

1 東金市のプラムについて

東金市の丘山地区では平成5年頃から、プラム（すもも）の栽培が始まり、現在は生産者10戸、栽培面積4.2haです。プラムは6月下旬から9月上旬にかけて収穫され、各生産者の直売所や道の駅等で販売されています。栽培されている品種は、「大石早生」、「李王」、「ソルダム」、「貴陽」、「太陽」等です。最近では食味、外観ともに優れた品種「貴陽」の人気が高まっています。

千葉県内には、東金市以外にプラム生産部会がないため、県外の先進産地を訪問し、せん定等の栽培技術の習得・向上に努めてきました。栽培方法としては平棚栽培と立木栽培の両方が行われています。



収穫期のプラム「貴陽」

プラムは春先の天候の変化が大きい時期に開花するため、受粉・結実が不安定になりやすい果樹です。中でも、「貴陽」は安定した結実が難しい品種であるため、人工受粉技術の改善を重ねながら栽培されています。

2 販売促進に向けて

例年、販売促進イベントを道の駅「みのりの郷東金」で開催し、消費者に東金市の特産物としてプラムをPRしています。また去年は、販促活動時の効果を期待して、部会で栽培している品種の紹介や、各部会員の

直売所マップを掲載したポスターを作成しました。プラム園を背景に完熟した果実の写真を掲載し、見る人の興味を引くように工夫されています。

3 産地強化に向けて

病虫害や風による被害を受けた果実を有効に活用するため、加工品の製造を検討しています。去年は加工の第一歩としてジャム加工研修を実施しました。食品加工機器メーカーから講師を招き、冷凍保存したプラムを使用したジャム作りの講義・実習を行いました。自家用にプラムのジャムを作ったことのある部会員もいましたが、商品化に向けたジャム作りの基本を学びました。研修後にはジャムを利用した商品のアイデアについても話し合わせ、今後の産地強化の方法を考えるきっかけとなりました。



ジャム加工研修の様子

生産面では、病虫害防除を効率的に行うために、平成30年度から部会内で共用のスピードスプレーヤーを導入しています。樹齢構成としては、部会設立時に植えられた20～25年生の樹が多く、改植が必要になっています。一方で、新たなほ場に苗木を定植し、経営面積の拡大に意欲的に取り組んでいる生産者もあり、県内唯一のプラム生産部会の維持・発展が期待されます。

“千葉なし味自慢コンテスト” 開催のお知らせ

千葉県農林水産部生産振興課

このコンテストは、県内で生産される梨の品質向上と消費拡大を目的に毎年開催しています。

本年は、甘さと酸味のバランスが絶妙で濃厚な味わいの「豊水」を対象に、県内産地から100点を超える選りすぐりの梨を集め、「千葉なしナンバーワン!」を決定します。

最終日には、出品物の即売をします。

たくさんの皆様の御来場をお待ちしております。

- 1 期日 令和2年8月29日(土)～30日(日)
29日(土) 専門家による審査
審査の様子は御覧いただけます。
30日(日) 午後から、展示品の即売
- 2 会場 イオン津田沼店1階センターコート
(新京成線新津田沼駅下車徒歩2分)
- 3 問合せ先 千葉県農林水産部生産振興課
TEL: 043-223-2872



専門家による品質審査



上位3賞に輝いた梨の展示

千葉県立農業大学校 令和3年度 推薦入学生の募集について

千葉県立農業大学校庶務教務課

農業経営者、指導者をめざす、みなさんの
チャレンジをお持ちしています!

▼募集人員 農学科 約40名、研究科 約10名

▼受験資格

農学科 高等学校を卒業又は令和3年3月卒業見込みの者で、学業成績が特に優秀であり、かつ学校長が推薦する者。

研究科 短期大学卒業と同等と認定されている農業業大学校の卒業生又は、短期大学の農業に関する正規の課程を修めて卒業した者(令和3年3月卒業見込の者を含む)。

▼試験期日 令和2年10月27日(火)

▼試験場所 千葉県立農業大学校

▼試験内容

農学科 小論文及び面接

研究科 小論文及び面接

▼願書受付

令和2年9月28日(月)～10月9日(金)

▼合格発表 令和2年11月5日(木)

▼問合せ先 千葉県立農業大学校庶務教務課

〒283-0001

東金市家之子1059

電話: 0475-52-5121

FAX: 0475-54-0630

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/index.html>

※本校での勉強の様子や学生生活に関する情報を御覧いただけます。



twitter



facebook



千葉県立農業大学校
CHIBA PREFECTURAL AGRICULTURAL COLLEGE

